

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（特養）

施設名 京都市柘野特別養護老人ホーム

1 施設の管理運営

| |
|--|
| 〔利用定員〕 長期利用：50名 短期利用：4名 〔介護保険給付対象サービス〕 施設ケアマネジメント、日常生活上の相談援助、介護（食事・入浴・排泄・その他）サービス、栄養ケアマネジメント、健康管理及び療養上の指導 〔介護保険給付対象外サービス〕 食事の提供、各種行事・レクリエーション、理・美容サービス |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 |

2 事業実施内容

| |
|--|
| 〔サービス向上の主な取り組み〕 ・ 各種施設内研修の開催…「課題別研修」 （「階層別研修」に関しては、法人事業本部で開催） ・ 各種勉強会・ 各種施設外研修への派遣・ 個別ケアの推進 ・ リスクマネジメント活動の推進 ・ プリセプターシップでの人材育成（法人事業本部と連携） |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 |
| （参考）自主事業内容 |

3 サービス提供状況

| |
|--|
| 施設長：1名 生活相談員：1名 介護支援専門員：常勤兼務 4名 介護職員：常勤専従 10名 常勤兼務 4名 非常勤専従 17名 看護職員：常勤専従 2名 機能訓練指導員：非常勤専従 1名 管理栄養士：常勤専従 1名 医師：非常勤専従 1名 |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 |

4 市内中小企業への発注に対する考え方

| |
|----------------------------|
| ・ 同条件であれば、市内中小企業への発注を優先する。 |
|----------------------------|

5 施設の利用状況（施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 特別養護老人ホーム（長期入所）利用者のべ人数（実績値）

17304 人

(2) 収支実績

ア 令和4年度収入状況（単位：円）

| | |
|--------|-------------|
| 介護保険収入 | 158,463,710 |
| 利用料収入 | 40,550,298 |
| 委託料収入 | 74,250 |
| 補助金収入 | 35,230,000 |
| 寄付金収入 | 0 |
| 雑収入 | 21,184 |
| その他 | 3,957,600 |
| 収入計 | 238,297,042 |

イ 令和4年度支出状況（単位：円）

| | |
|-------|-------------|
| 人件費 | 136,440,252 |
| 事業費 | 35,469,182 |
| 委託費 | 13,018,966 |
| 小額修繕費 | 132,733 |
| その他 | 52,669,268 |
| 支出計 | 237,730,401 |

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和3年度 利用者アンケート実施〔実施期間〕 令和3年8月15日～8月31日
〔方法〕 食事、環境、職員態度、余暇・行事、その他について調査「はい・いいえ」の2択とその理由を記載。又、利用者に応じて聞き取り調査を実施。〔設問数〕12問 〔回答数〕42名/50名

(2) 利用者満足度把握の結果

食事内容、環境、余暇等要望事項あり

(3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果を踏まえ、実現可能なものについては改善を図った。

7 その他特記事項

(1)

令和3年度家族アンケートの実施
〔実施期間〕令和3年8月16日～31日
〔回答数〕38名（回答率：76.0%）

(2)

(1) アンケート内容について
サービス内容、職員の対応、サービスの質、施設サービス計画書について、面会方法、広報紙、その他

8 評価（指定管理者自己評価）

令和4年度は施設内での新型コロナウイルス感染が4回発生。利用制限が長期間続いた事で、稼働率は全体で91.5%にまで落ち込み、介護保険事業による収入は昨年度比でおよそ450万減少し、大きな影響を残した。人件費は感染拡大時に於ける臨時雇用を含め、昨年比で150万の増加。事業費としては光熱費の高騰により190万増加した一方で、その他の事業費は介護用品費がコロナ関連補助金の活用により100万減、その他賃借料などを併せて100万程度削減、事業費全体では昨年度比20万程度の増加になった。事務費については、ベトナム人技能実習生2名引受けによる研修研究費が約100万、入国に係る費用など手数料、雑費と合わせ約110万を計上しており、事務費全体で250万増加。収支全体としては売り上げ減、経費増、という形で資金収支は134万の赤字という結果となった。

施設整備については、補助金を活用したプライバシー保護のための個室化事業を実施する事で、利用者のプライバシーを尊重した取り組みを行う事が出来た。人材育成については、法人内研修(座学やOJT)だけでなく、Webを最大限活用することにより、外部研修にも積極的に参加。また、障害を理由とする差別の解消に向けた職員研修により理解を深める事ができた。これらの取り組みにより、総合的なケアの質の向上、入所者・ご家族の満足度向上にもつながっている。今後もより高いレベルで地域の要請に応えられるよう、努めていく。

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（短期）

施設名 京都市柘野特別養護老人ホーム
（短期入所（併設型））

1 施設の管理運営

| |
|---|
| 〔利用定員〕 長期利用：50名 短期利用：4名 〔介護保険給付対象サービス〕 施設ケアマネジメント、日常生活上の相談援助、介護（食事・入浴・排泄・その他）サービス、栄養ケアマネジメント、健康管理及び療養上の指導 〔介護保険給付対象外サービス〕 食事の提供、各種行事・レクリエーション、理・美容サービス (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 |
|---|

2 事業実施内容

| |
|--|
| 〔サービス向上の主な取り組み〕 ・ 各種施設内研修の開催…「課題別研修」 （「階層別研修」に関しては、法人事業本部で開催） ・ 各種勉強会・ 各種施設外研修への派遣・ 個別ケアの推進 ・ リスクマネジメント活動の推進 ・ プリセプターシップでの人材育成（法人事業本部と連携） (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 (参考) 自主事業内容 |
|--|

3 サービス提供状況

| |
|---|
| 施設長：1名 生活相談員：1名 介護支援専門員：常勤兼務 4名 介護職員：常勤専従 10名 常勤兼務 4名 非常勤専従 17名 看護職員：常勤専従 2名 機能訓練指導員：非常勤専従 1名 管理栄養士：常勤専従 1名 医師：非常勤専従 1名 (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 |
|---|

4 市内中小企業への発注に対する考え方

| |
|----------------------------|
| ・ 同条件であれば、市内中小企業への発注を優先する。 |
|----------------------------|

5 施設の利用状況（施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) ショートステイ（併設型及び空床利用型）利用者のべ人数（実績値）

1288 件

(2) 収支実績

ア 令和4年度収入状況（単位：円）

| | |
|--------|------------|
| 介護保険収入 | 10,767,213 |
| 利用料収入 | 2,467,084 |
| 委託料収入 | 0 |
| 補助金収入 | 0 |
| 寄付金収入 | 0 |
| 雑収入 | 183,867 |
| その他 | 0 |
| 収入計 | 13,418,164 |

イ 令和4年度支出状況（単位：円）

| | |
|-------|------------|
| 人件費 | 9,825,863 |
| 事業費 | 2,919,109 |
| 委託費 | 970,275 |
| 小額修繕費 | 9,135 |
| その他 | 1,607,954 |
| 支出計 | 15,332,336 |

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和3年度 利用者アンケート実施〔実施期間〕 令和3年8月15日～8月31日
〔方法〕 食事、環境、職員態度、余暇・行事、その他について調査「はい・いいえ」の2択とその理由を記載。又、利用者に応じて聞き取り調査を実施。〔設問数〕12問 〔回答数〕42名/50名

(2) 利用者満足度把握の結果

食事内容、環境、余暇等要望事項あり

(3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果を踏まえ、実現可能なものについては改善を図った。

7 その他特記事項

(1)

令和3年度家族アンケートの実施
〔実施期間〕令和3年8月16日～31日
〔回答数〕38名（回答率：76.0%）

(2)

(1) アンケート内容について
サービス内容、職員の対応、サービスの質、施設サービス計画書について、面会方法、広報紙、その他

8 評価（指定管理者自己評価）

令和4年度は施設内での新型コロナ感染が4回発生。利用制限が長期間続いた事で、稼働率は全体で91.5%にまで落ち込み、介護保険事業による収入は昨年度比でおよそ450万減少し、大きな影響を残した。人件費は感染拡大時に於ける臨時雇用を含め、昨年比で150万の増加。事業費としては光熱費の高騰により190万増加した一方で、その他の事業費は介護用品費がコロナ関連補助金の活用により100万減、その他賃借料などを併せて100万程度削減、事業費全体では昨年度比20万程度の増加になった。事務費については、ベトナム人技能実習生2名引受けによる研修研究費が約100万、入国に係る費用など手数料、雑費と合わせ約110万を計上しており、事務費全体で250万増加。収支全体としては売り上げ減、経費増、という形で資金収支は56万の黒字(昨年度比-530万)という結果となった。

施設整備については、補助金を活用したプライバシー保護のための個室化事業を実施する事で、利用者のプライバシーを尊重した取り組みを行う事が出来た。人材育成については、法人内研修(座学やOJT)だけでなく、Webを最大限活用することにより、外部研修にも積極的に参加。また、障害を理由とする差別の解消に向けた職員研修により理解を深める事ができた。これらの取り組みにより、総合的なケアの質の向上、入所者・ご家族の満足度向上にもつながっている。今後もより高いレベルで地域の要請に応えられるよう、努めていく。